

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 306 回 天は自ら助くる者を助く ~ 真の「自助力」とは...

2009.4.12

「天は自ら助くる者を助く」...という一文は、サミュエル・スマイルズ(Samuel Smiles)の 1858 年に出版された「自助論」、その序文にそえられた有名な言葉である。

たぶん ~ 天は公平で、依怙顧慮しない。努力した人にだけ、いい結果を与えてくれる。時には、努力した人には幸運をもたらした、と思わせる。人は騙せても、天を欺くことはできない。~ そんな風に、勝手に解釈している。もちろん、運やツキもある。偶然や出会いもある。でもやはり、一番幸せを運んでくれるのは、自分の努力ではないだろうか。幸せになろうと本気で努力する人には、天は必ず幸せを与えてくれる、と信じて努力したほうがいいと思っている。

人間はみんな弱い生き物である。たぶん、あらゆる動物の中で一番弱いのではないだろうか？ 身を守る保護色もなく、撻猛で強靱な体力はないし、鋭い牙も持たない。空を飛ぶこともできないし、海もろくに泳げない。でも、だからこそ知恵が付き、異常なまでも「脳」が発達した。この、考える「脳」のお陰で動物界に君臨することができたのかもしれない。

しかしこの「脳」の厄介なところは、自由奔放、変幻自在、時には充耳不聞で鬱鬱快快であったり、鬱鬱勃勃となったりで、人や、その状況により自由に变化する。「弱さ」の本音がこの「脳」を支配した時、つい、S・スマイルズの言葉を忘れてしまう。その結果どうなるか...

一つのタイプは、自らを柵に置きつつ、相手のせいにする批判屋。ご存知、万年野党の評論政治家さんと、それに同調するお気軽無責任マスコミ陣。糞も味噌も一緒に政府が悪いでは、何も改善しないし、解決する気がない何よりの証拠である。更に、もう一つのタイプは逃げの名人である。面倒なこと、辛いこと、難しいこと、余計なこと...全て大嫌いで、啞然とする見事な屁理屈をつけては逃げ回る。無責任、無関心、無感動、無神経な「ジコチュウ」達である。そしてもう一つは、全ての弱さを内包し、セルフコントロール不全となり、内因性あるいは心因性のうつ状態を継続的に病んでしまう、最悪のパターンである。いやはや小生、医学者でも、心理学者でも、社会学者でもないゆえ、この分析が間違っているのかもしれない。が、いずれにしろ、S・スマイルズの「自助力」が欠如した現象で、「脳」の厄介さが巻き起こす、人間の弱さと狡さの現われだと思っている。

実際今の日本、こんな輩が多くなった。「私は大丈夫」と思っているあなた、冷静に自己分析する必要があるかもしれない。いつか、どこかで、知らずして人のせいにしているかもしれない。

S・スマイルズは、「天は自ら助くる者を助く」とはどういうことか...その著書の中で明確に述べている。それは次の6つのミッションを果たすことである。

- 第一のミッション 人生は自分の手でしか開けないことを自覚する！ ~ (人のせいにしない)
- 第二のミッション 常識に明るく、辛抱強い人間になること！ ~ (豊かな教養と情報力、強い信念を持つ)
- 第三のミッション 人生の奥義の九割は、快活な精神と勤勉にある！ ~ (健全な心で一生勉強)
- 第四のミッション 逆境の中でこそ若芽は強く伸びる！ ~ (好んで苦勞に向かえ、決して逃げない)
- 第五のミッション 勝負の鍵となる持続力！ ~ (諦めず忍耐、継続努力)
- 第六のミッション 実務能力のないものに成功者なし！ ~ (評論家でなく現場を知る、有言実行)

この6つのミッションを繰り返しやり通し、努力を怠らない人にとって、天は見捨てないはずである。